

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・春物の動きが良い。それによって少し客単価が上がってきているので、良くなっていく。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・来月は、プロ野球のキャンプがスタートし報道陣等の利用、また県外からのプロ野球ファンの移手段としての利用が見込める。
	変わらない	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・類似商品を取扱っている店舗が2～3年で急激に増加した。その結果が現状の売上減少になっている。他社も同様と聞いているだけに、全体的に伸びる期待は持てない。よって、企画や商品開発などで差別化を図る予定である。
		スーパー（経営者）	・年末には競合店の出店があったが、ほぼ前年並みで推移していることから、このような状況が続く。ただし、原油価格の高騰に伴う値上げも有り、今後それらの状況によっては、客足が鈍る可能性もある。
		コンビニ（経営者）	・近くに小中学校があるが、お菓子などの値上げで子供達があまり買物をしなくなってきている。大人も無駄買いをしなくなってきている。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価は依然前年並みだが、客数減が売上減に直結している傾向は変わらず、年度ごとにその繰り返しのため売上の低迷は今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・消費者の動向は決して良くない。また、県内工事着工数の減少によりブルーカラー客層の減少は今後も進む。
		観光型ホテル（商品企画担当） 観光名所（職員）	・この先3か月の受注稼働状況でも、ほぼ前年並みで推移している。 ・沖縄観光は平成19年10月以降伸び悩みの状況にある。これからは原油高に伴う航空運賃、諸物価の高騰が予想され県外からの入域観光客に頼る沖縄観光は厳しい状況が予想される。ただこれからは花祭り等暖かい沖縄が全国に発信されるとともに沖縄の根強い人気により前年度並みの入域観光客数は維持する。
	ゴルフ場（経営者）	・ここ数年、売上の推移は一定のパターンに沿っている。それから外れる気配は無い。	
	やや悪くなる	家電量販店（従業員）	・好調に転じる要素が見当たらない。逆に不安材料は沢山ある。
その他専門店〔書籍〕（店長）		・単価の値上げに伴い、真っ先に生活費の中から削られていくのは趣味にかけける金であるので、今後商品の値上げが続くと将来的にどうなるかが不安である。	
高級レストラン（営業担当）		・見込み状況が前年度より2割ほど悪い。	
観光型ホテル（営業担当）		・航空会社の料金値上げ等があり、集客が厳しくなる。	
観光型ホテル（総支配人）		・首都圏を中心としたメディア経由の集客が伸びず、加えて増加したホテルへ分散され宿泊人数は今後5%程度減少すると予測される。那覇地区は競争激化の時代に入った感がある。またプライダル部門も25%の売上減少と予測される。	
悪くなる	商店街（代表者）	・沖縄全体の景気は良くなっていると言われているが、中心商店街に関しては業種が観光土産とか飲食店の方に偏り、お互い売上を奪い合っている感がある。同業種の競争は激化の一途で、経済的には危機的状況に陥り、大変危惧をしている。観光客数は多いが、売上には直結しない厳しい状況がある。	
	百貨店（担当者）	・原油高等に対する明快な対応策が出せないままの現状では不景気感、生活防衛感の高まりは今後も増大する。漠然とした不安感が大きな要因として挙げられる。また秋冬における天候異変による衣料部門の苦戦も依然厳しく、春物の展開とあわせて変化があるとは想定できない。	
	その他専門店〔楽器〕（経営者）	・中小企業の不況感、原油の値上げ等で観光客が減少するのではないかとの懸念がある。また、九州新幹線の開通等で沖縄観光にも変化がある。	
	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・客の話では、サービス残業が増えてきておりガソリン代、昼食代が上がっている上に、代行運転代まで払うと負担が大きく何回も外食できない。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・これから着工数が増えると同時に、引き合い件数も増加する。

		広告代理店（営業担当）	・好調に推移する入域観光客数の現状から、観光関連企業の販促活動が活発化する傾向にあることや、県内市場をターゲットとする企業も観光客の伸びに伴う県内消費力の拡大を期待しての動きがあることから、マーケティング予算が増大する可能性が高い。
	変わらない	食料品生産業（管理部門） 輸送業（営業担当）	・円高傾向は好影響をもたらすが、それ以上に原油高騰や主原料価格高騰によるマイナス影響が発生している。 ・原油価格高騰に伴う輸送費見直しの波が徐々に表面化しているが、実態は荷主も収益を圧迫されている状況でなかなか輸送費見直しまでは到達できていない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	コピーサービス業（代表者）	・これから先の3か月は期待ができない。夏までは新設備の準備に追われ、売上を増やすのはその後になる。我々の仕事は、良い人材も必要ではあるが、設備でしか競争力はつけることができない。年々競争激化する一方である。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・現在は好調だが、今後同じように推移するか全く分からない。3月の年度末で派遣終了も多数あり、更新の状況が未定のため把握しづらい。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・IT関連企業以外の求人は伸びず、また、石油価格高騰のあおりで、4月から石油関連製品の値上げも予定されており、販売業やサービス業の先行き不透明感は否めない。そのため採用環境も劇的な変化は見られない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・経営者側が原材料等の値上げで、春闘の賃上げにブレーキを掛ける発言があり、消費者物価が上昇する反面、賃金は据置き・引き下げ、社会保険料のアップも控えており、消費の引き締め等購買意欲の低下、景気を引っ張ってきた輸出産業の円高によるブレーキ、株安等の懸念がある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県内企業経営者に景気の不透明感が広まっており、求人に対して慎重な見方が増えている。
	悪くなる	-	-